

第25回日本薬物脳波学会 第57回日本作業療法学会

作業療法学専攻 白岩 圭悟

2023年8月4日～5日、第25回日本薬物脳波学会が開催されました。薬物脳波学会は日本における薬物脳波およびその関連領域に関する研究の発展を促進することを目的に開催されています。今回シンポジウムでは「電気生理学的手法の作業療法学への展開と未来」、「製薬企業における薬物脳波研究」、「最新のトランスレーショナルの潮流」の3つが行われ、幅広い領域における最新の知見に合わせて、作業療法研究においてどのように脳波を位置づけるべきかという羅針盤になるような意義ある内容でした。私は「手工芸活動の学習効果における脳波と自律神経活動の変化」という演題を発表しました。手工芸活動の学習度の変化によって、Frontal midline theta rhythm (Fm θ)の出現パターンが2群に分けられること、学習によって α 帯域の左右の機能的連結 (Functional Connectivity) が強化されること、また学習によって副交感神経活動が高まることを報告しました。その他に、私たちの研究グループからは「作業療法場面で副交感神経活動を高めるための治療構造に関する検討」「フラワーアレンジメントにおける生花と造花の違いが脳波活動に及ぼす影響」を発表されましたが、他の領域の研究者から様々なご意見をいただき、多くの出会いとディスカッションを通して深い学びの機会

となりました。

2023年11月10日～11月12日、日本作業療法学会が開催されました。今回の学会のテーマは「ものごとの仕組みに注目するー作業療法における問題解決の糸口としてー」でした。私は「塗り絵における手本の有無が脳活動に及ぼす影響ーeLORETA法を用いた電流源推定と機能的連結による検討ー」という演題を発表しました。塗り絵において手本を示した方が、Fm θ が出現しやすいという結果を示したものです (図1)。この結果は同じ作業を行うとしても、手本の有無によって、脳活動は大きく異なることが確認でき、臨床応用における作業の適応と段階付けの根拠になる知見と考えています。その他に私たちの研究グループからは「パラレルな場がもたらす自律神経活動への影響の検討」、「生花とハーブを使ったフラワーアレンジメントの自律神経活動への影響」の演題が発表されました。いずれも、作業療法という複雑な構造を、脳波と自律神経活動といった客観的指標を用いて、神経科学的にその治療的エビデンスを示そうという試みでした。関心を持っていただく参加者も多く、今後も臨床を支え、臨床に還元できる研究を行っていきたいという思いを強くする学会となりました。

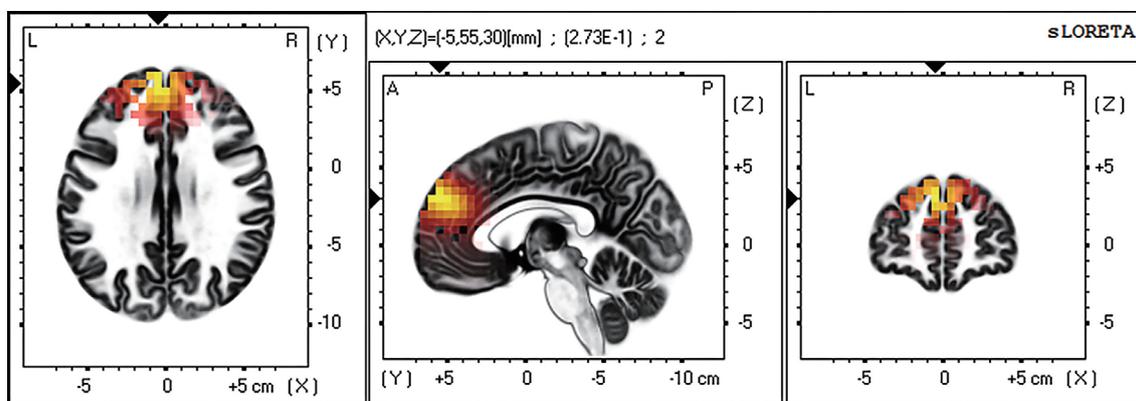


図1 手本ありで塗り絵を行った際のFm θ